

壱岐市が目指す、生涯活躍のまち。

1980年から一貫して人口が減少している壱岐市。

今後20年間のうちに、30～60代の支え手世代が激減すると予測されています。

一方で、壱岐市には、豊かな自然や大陸との交流を背景とした歴史・文化資産など様々な強みがあります。

来てよし
住んでよし
働いてよし
の壱岐へ

福岡との近接性を生かした
“島ごと”セカンドワーク&ライフ

「壱岐市生涯活躍のまち」は、福岡などから移り住んだ人や壱岐に住まう市民が、生きがいを持ち、生涯を通じて健康で活躍できる“まちづくり”を目指すものです。

人口減少が進む中、壱岐ならではの、健康でアクティブな暮らしを求めて、元気なシニアが壱岐に移り住み、地域の担い手・活力になる。ひいては、雇用の創出や地域の活性化を目指した取組です。



壱岐市では、将来目標人口に向けて取り組む施策をまとめた「壱岐市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の一つとして「壱岐市版CCRC構築プロジェクト」を掲げています。

● 生涯活躍のまち（日本版CCRC）とは？

地方創生の観点から、中高年齢者が希望に応じて地方や「まちなか」に移り住み、地域住民や多世代と交流しながら健康でアクティブな生活を送り、必要に応じて医療・介護を受けることができる地域づくり。

*CCRC=Continuing Care Retirement Community
(まち・ひと・しごと創生本部より)

● [壱岐市生涯活躍のまち]のコンセプト

来てよし、住んでよし、働いてよしの壱岐へ：
福岡との近接性を生かした
“島ごと”セカンドワーク&ライフ

1

都会から訪れた人が、島の魅力に触れることで、都会との二地域居住や移住を考えるきっかけをつくる。

2

移り住んだ人が、地域住民や多世代の人々との交流を深めながら、豊かな自然の中で、健康でアクティブに暮らす。

3

移り住んだ人の新しい発想や視点が、島に新たな風を吹き込み、それが地域の活性化につながる。

● [壱岐市生涯活躍のまち]の取組

壱岐の課題解決に向けて、地域資源や強みを活かした4つの方向性をもとに取組を進めていきます。



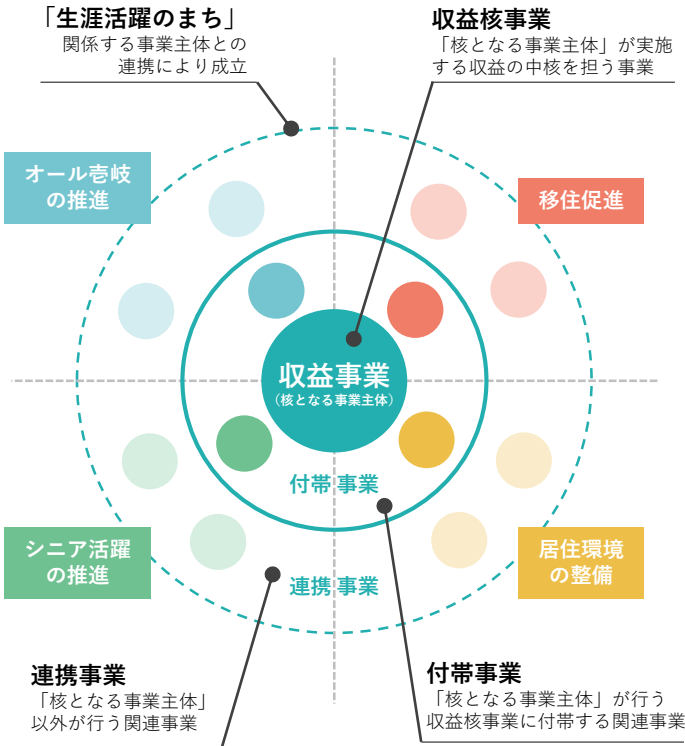
事業者

民間活力を生かした事業の牽引

民間活力を生かして、官民連携で生涯活躍のまちを推進する。

ビジネスモデルの考え方

- 4つの「取組の方向性」に基づく事業を複数の事業者同士が行政等と連携して実現することを想定
- 核となる事業主体は、自ら取り組む「収益核事業」及び「付帯事業」、他の事業主体と連携して実施する「連携事業」の組み合わせにより、「生涯活躍のまち」を推進する



吉岐外 事業者・移住者

新たな視点・価値観を地域に導入

吉岐市外の事業者や市民の視点を取り入れることで、吉岐のポテンシャルを引き出し、既存ルールを超えた新たな事業アイデアやライフスタイルを吉岐に導入する。

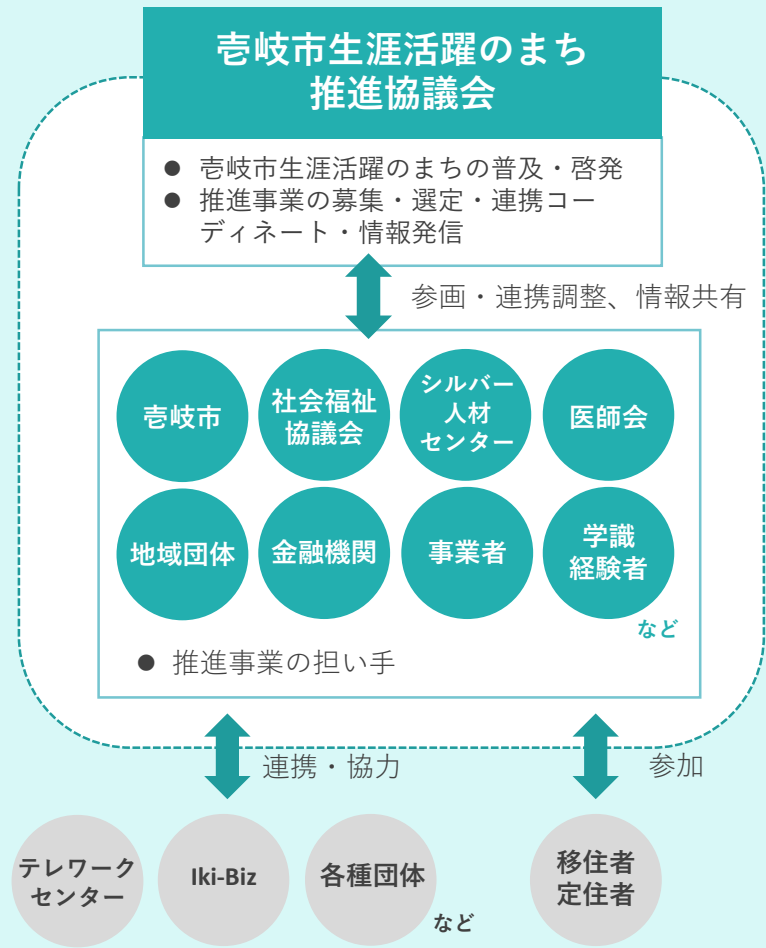
専門性・客観性を生かした事業の検証

移住高齢者向け住まいや地域交流・生活サービス施設の整備など、事業の実施にあたっては、大学による生活質（QOL）の変化シミュレーション等にもとづき、施策を検証する。

学識 経験者

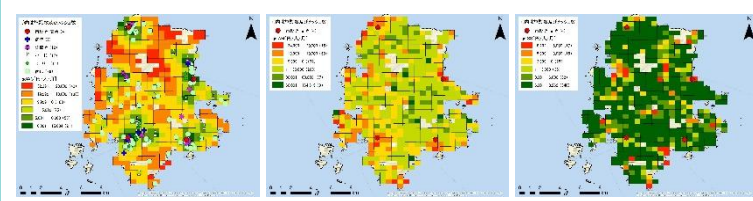
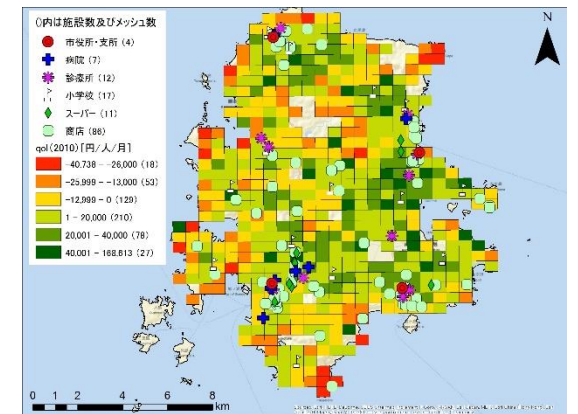
吉岐市生涯活躍のまち 推進スキーム

移住・就労・観光・医療介護など多様な分野の関係者が連携し、吉岐市生涯活躍のまちの実現を目指します。



施策シミュレーション例

- 現状趨勢の場合の、将来の人口減少によって消滅する生活サービス施設の将来予測と住民のQOL（交通利便性、居住快適性、災害安全性）変化
- 高齢者向け住まいやサービスの集約をした場合のQOL変化
- 公共・医療サービスが集積する複数のエリアに小さな拠点を形成した場合のQOL変化
- エリア特性を踏まえて、導入機能を複数のエリアで分担・連携した場合のQOL変化



※シミュレーションのイメージ

移住者等の地域受入サポート

移住者が地域へ入るときの受入をサポート。観光客のおもてなし（ガイド）などを担う。

いきいきと暮らし、その暮らしを発信

生涯活躍のまちの推進によって、移住者だけでなく地域住民も、吉岐ならではの健康でアクティブな暮らしを送ることができる。また、その暮らしを吉岐内外へ発信することで、移住促進や地域活性化へとつながる好循環を生み出す。

市民